

そして、新年会は恒例となった「今、最もナウいスポット」を見学する企画。

今年は六本木ミッドタウン界限を選択。黒い穴のあいたモニユメントの前で集合し、一巡してからすぐ近くの国立新美術館にまわった。美術館では横山大観展が最大イベントとして開催されていたが、展示会場があまりにたくさんあり、1時間弱の時間では廻りきれず、主な展示会場を特急でのぞき回り、懇親会場に移動せざるを得なかった。

懇親会には小番先生にも特別参加をいただき、神戸、京都、新潟からも集まって総勢25人の参加。中締め挨拶に続いて、最後校歌斉唱となったが、そのあとも立ったまま次々と応援歌が繰り出され果てしなく続きそうなのを打ち切って、カラオケ二次会へと流れた。関東十四期会は平成20年も元氣の予感で始まった。



発足以来約10年間毎月続いている「一金会」の例会は今年も順調に開催されている。十四期に限らず、他の期の皆さんもどうぞ遊びに来て下さい。
(富山 忠昭記)

▼東京十七会 短信

毎年3月開催が恒例となっている第17期卒業生の「東京十七会(トナカイ)」が、今年も3月1日(土)14時から大手町の産経新聞ビル、サンケイプラザにおいて開催された。

参加者は北海道・秋田・岩手・宮城・福岡・静岡など首都圏以外から10人を加えて40人丁度。

十七会会長木村繁美さんの挨拶、故日景成彦さんへの黙祷のあと、幹事の連沼(旧虹川)信子さんの音頭で乾杯。東京鳳鳴会17期代表連絡幹事である金澤幸夫さんからの諸



連絡に続いて、卒業後43年ぶりでも再会した3人、宮城の高橋(旧勝又)陽子さん、秋田の藤島勇一さん、北海道の柴田憲次(ホーマック株式会社社長)さんらから近況が話された。

さらに岩木山冬山登山遭難事故に遭われた学友を偲んで最近作曲された新曲「岩木山哀歌」が披露され、しばし全員で耳を傾けた。

最後は記念写真撮影、校歌斉唱で閉会。二次会は八重洲口にあるカラオケ店へ32人もの大勢で繰り出し、年甲斐もなく青春を謳歌。
(白根修記)

▼鳳鳴十八期 同期会報告

恒例の同期会が昨年10月13日(土)麹町の「スタワール」にて開催されました。開催日は例年10月の第3土曜日と決まっているのですが、今回は会場の都合で急遽第2土曜日となりました。参加者が減るのではないかと心配していましたが、あに因らんや過去最高の37人を数え杞憂に終わりました。

やはり還暦を迎えるとあって節目の年に仲間が恋しくなったのでしょうか?

思えば東京での同期会をスタートさせたのが41歳の時でしたから、今年が丁度20回目となります。5、6年前までは二次会どころか三次、四次会と午前様は当たり前というものでしたが、以降は年々酒量も落ち、今年には二次会にて、大半が退散するという結果でした。

戦後「ベビーブーム」の第一弾で「団塊の世代」と命名され、何かと



取りざたされてきた我が世代も老の仲間入りとは言うものの、年金を満足に頂けないとあってはまだまだ退くわけには参りません。第二の人生の旅立ちを祝って大いに氣勢を上げた一日でした。
(栗盛信太郎記)

▼鳳鳴十九期 短信

首都圏同期会の開催について平成19年10月20日(土)午後5時から五反田の「吾作」にて卒業後40年にして首都圏では初めての同期会を開催しました。

当日は総勢41名の仲間が集い皆18才の青春時代に立返り、思い出話に話はずみ、石戸谷アナの名司会もどこかに飛んでいってしまった、あつという間の3時間でした。

我々も今年は次々と還暦を迎えるところになっており、やっぱり仲間が集える場が欲していたことであらためて気づかされた一日で

「東京十七会」に参加しよう!!

トナカイ

首都圏に住んでいる17期生を中心に毎年3月上中旬の土曜日午後懇親会を開き楽しく旧交を温めています。

あなたも友人を誘ってぜひ出席してください。

まず身近な同期生に

連絡をとることから始めましょう!!

<十七会幹事>

白根修 080-1125-1191

連沼(虹川)信子 048-223-3569



28期、同期の方々
ご連絡ください

鳳鳴28期連絡幹事
近谷 良雄

e-mail:
chikatani@khh.
biglobe.ne.jp

祝

更なる会の
発展を祈念する

平成20年度
東京鳳鳴会総会

昭和35年3月卒業

東京鳳鳴会12期会一同

12期会会長 市川 栄 敏